



笑顔とやる気いっぱいの中 生徒自らが常に鍛え続ける中

七中だより



第 2 号

中野区立第七中学校《学校だより》

令和2年5月11日

TEL 03-3389-4171

「頑張れ 七中生」

校長 池田 俊一

新しい学年が始まり一ヶ月が過ぎました。いつもなら大いに楽しんだであろうゴールデンウィークも気がつけば過ぎ去ってしまい、味気なさが残っているのは私だけでしょうか。ただ、報道を見ると、新幹線の乗車率が0%だったり、飛行場の映像には、少しの人しか写っていないなかったりと自粛8割を多くの人がしっかり守ろうとしている事が分かり「これで良かった。」と納得しました。しかしながら収束がまだまだ見えないこともあり学校の休業も5月いっぱいまでとなりました。この後どうなるのか予想が付きませんが、やや明るい兆しありと私は思っています。一日も早く生徒の皆さんが学校で勉強できる日が来ることを楽しみにしています。生徒一人ひとりが家庭で深めてきた学ぶ力が発揮され、学校でもむさぼる様に勉強できたら素晴らしいです。また、皆さんが楽しみにしている部活動もスタートします。とくに新たに入部する1年生にとっては、ドキドキが止まらない思いでしょう。本当に学校の再開が待ち遠しい毎日です。

ところで、家の中にいる時間が多くなったGW、私は古い段ボールを開き「断捨離」をはじめました。家の中もスッキリさせてスタートを切りたいと思い、始めたのですが、段ボールから見慣れない本が出てきたのでつい読んでしまいました。自分で買った記憶が無いので家族の誰かの本でしょう。その本は、「毎日がポジティブになる、元気が出る言葉366日」という本でした。一年365日の誕生日または命日の著名人の言葉が編集されています。「言葉は」短く掲載されています。本来ならば文章の全てから受け取るべき「言葉」なのでしょうが、エッセンスだけでも元気が出ると共に「わかる。まったくだ。そのとおりだ。」と思うものばかりでした。ちなみに私の誕生日には、元アメリカ大統領セオドア・ルーズベルトの「地に足をつけ、星を見るんだ」と言葉が載っていました。苦しい時こそ地に足をつけ星を見上げれば、星は必ず勇気づけてくれる。という注釈も

ついており、まさに現在の状況にぴったり当てはまるなど感じました。自粛自粛のなか不便、不自由な状況ですが顔をあげ遠くを見つめポジティブにいきましょう。

もう一つ本日の新聞に、バンクシー(謎の芸術家)の記事がありました。イギリスの総合病院に白黒の絵が贈られたのでした。その絵は小さな子どもが人形を持っているものです。人形は、右手を突き上げヒーローの様にマントをひるがえしています。その人形はマスクをして胸に赤十字のエプロンをかけた看護師さんです。子どものそばにはおもちゃカゴがあって、バットマンらしき人形が入っています。これは医療従事者への感謝の気持ちを表したものでした。添えられたメッセージには「少しでもその場所が明るくなることを願っています。」と書かれていたとのことでした。現在、医療に従事している方々の苦勞、疲労は限界を越えている、その中で「医療崩壊」とせめぎあっていると聞いています。全世界規模のこの有事は、まさに戦争のようだとの表現も聞いたことがあります。報道では、そんな最前線で働く方々への励まし声がある反面、心ない中傷や自己中心的な行動もあり、コロナウイルス以外の事でもとても辛い思いをしているとありました。たいへんに気の毒に思いました。このような時には、人々は日頃とは異なる心の持ちようや切羽詰まったどうしようも無い言動が外に出てしまう、そんなこともあるだろうと思います。がしかし、その気持ちをなんとか抑えつける事ができるのも人であればこそです。生徒のみなさんには、学校だよりの1号にも書きましたが「優しい気持ち」で生活できていますか、自分の役割を嬉々としてやっていますか、と改めて聞きたいと思えます。この学校便りのサブタイトルは「笑顔とやる気いっぱい中、生徒自らが常に鍛え続ける中」です。七中生よ、「たゆまず うまず」頑張りましょう。

